

“城下町いずし”を学校にするー「地域探究Ⅰ・Ⅱ」の取組ー

【地域探究Ⅰ】人文類型2年選択

昨年度、人文類型のコア科目として設置された学校設定科目です。第1学期は「出石学」と称して地域の各講座担当者に講義をしていただきます。城下町いずしにまつわる基礎的な知識を学習するとともに、それをもとに第2学期以降の講座を学期末に選びます。

6月16日(木)は、6講座の最終講義の日でした。今回は、出石皿そば協同組合様による実習を交えたもので全受講生が出石そば打ちを体験しました。

特別の包丁で切り離された自作のそばの中にはやや太めのものも見られましたが、きっと第2学期に何度か体験を重ねると本来の出石そばの姿に近づくことなのでしょう。この貴重な体験機会の様子は、翌日の朝、関西テレビのニュースの中でも紹介されました。



【地域探究Ⅱ】人文類型3年選択

「地域探究Ⅱ」は、今年度開講された学校設定科目です。昨年度「地域探究Ⅰ」を受講した生徒のうち、さらに地域を題材にした探究活動を深めることを希望した生徒11名が受講しています。

4月開講以来、城下町いずしを代表する名所・旧跡、施設等を学校の教室に見立て、町の活性化や町づくりに関わる思索を深めてきました。これまで訪れて活動した場所は、辰鼓楼(しんこうろう)、家老屋敷、東京大学初代総理(そうり)加藤弘之の生家、郡役所を移築した町内唯一の明治期の洋館出石明治館、杞柳細工(きりゅうざいく)の技術を伝える伝統工芸館・杞柳、江戸期に活躍した僧侶沢庵(たくあん)ゆかりの宗鏡寺(すきょうじ)です。

6月16日(木)は、豊岡市立コウノトリ文化館自然解説員の方のご指導のもと、谷山川の中流域に生息する生物の調査を行いました。調査地点は出石城跡の稻荷社参道に架かる橋の付近と柳町の通称お竜灯籠(とうろう)付近の2か所で、捕獲された魚類や虫類の違いや生息環境を調べることを目的に2つの班が調査のため網を持って川に入りました。

ちょうど、2年生のそば打ち体験を見学した帰り、冷たい川に入って歓声をあげながら懸命に捕獲しようとする生徒の姿を見ることができました。授業の後半、各々捕獲した生物をバケツに入れて持ち帰り、透明のアクリルケースに種別に移して解説員の方に説明をしていただきました。距離にしてわずかな2地点ですが、生息する生物に明確な違いがあることに生徒は大きな驚きを表していました。学校の前を流れ、毎日通学途中に目にしている谷山川の生物調査は、地域の自然に対する関心を高めることにも繋がったと考えています。次年度以降も継続的に調査ができれば経年変化を捉えることもできそうです。

